

令和5年度 経営計画書 こども・夢・えがお部 部長 小井塚 裕二

1 部の 使命	<p>私たちこども・夢・えがお部は、日本の未来を担う養父市の全てのこどもにえがおがあふれ ここに生まれたことに喜びを感じ、夢や希望を語り、学ぶことに楽しみが持てる地域社会の実現を、保護者、市民との共創により目指します。</p>
2 外部 環境	<p>◎機会 【政治】 こども家庭庁の設置 こども基本法の制定、児童福祉法の改正</p> <p>▼脅威 【政治】 保育制度の改正検討 【社会】 少子化、要支援児童の増、1人親家庭の増 【経済】 物価、教育資金の高騰 【雇用】 労働力（保育教諭、看護師、介護士、その他担い手）不足</p>
3 内部 環境	<p>○強み 【政策】 こども・夢・えがお部（こどもセンター）の設置による一体的な子ども・子育て支援 【市民】 マイナンバーカード取得率が高い 【公共】 自治体DX</p> <p>▽弱み 【人材】 保育教諭不足 【インフラ】 教育・保育施設の老朽化 【経営】</p>
4 重要 経営 課題	<p>【人材】 保育士、担い手の確保 【政策】 ほっとステーションの運営 こどもアンケートの実施 課の年度経営計画と個人人事評価目標とのリンク 【情報】 市民に関心の高い子育て情報等の発信力の強化</p>
5 部の 経営 体制	<ul style="list-style-type: none"> ・所管課：子育て応援課（こども学び課） ・人員：子育て応援課15人 ・予算：部総予算額 973,647千円（会計年度職員人件費含む。）

6 部の 経営 目標	<p>【柱①市民】 B：ファミリーサポート事業の実施 H：ほっとステーションの運営 G：職員の働き方改革：年次休暇取得日数1人10日／年</p> <p>【柱②地域】 A：出生数 100人 B、D：ファミリーサポートセンター支援会員の確保 F：ほっとステーションの運営 F：全ての妊婦への出産前（妊娠32週以降）面談の実施 現状95% → 目標100% （里帰り出産などを除く。） D：子育てガイドブックの活用による支援</p> <p>【柱③公共】 A～D：全庁による子育て支援施策のパッケージ化</p>
---------------------	--

7 部の 経営 方針	<p>【経営】・こども起点 ・新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期を経て、大人になるまでの切れ目ない支援。 ・子育てに伴う喜びを実感できる支援整備 ・こどもの意見を取り入れること。</p> <p>【組織】まちづくり計画に沿った事業展開 【人材】人材確保の推進 【改善】エビデンス（ニーズ）に基づく政策立案</p>
---------------------	---

8 部の 重要 政策 の取 組内 容	<p>柱①市民 【新規】ほっとステーション 目標：平均利用人数 7人／日 【新規】子育てガイドブックの作成 目標：年内発行</p> <p>柱②地域 【新規】ファミリーサポートセンター 目標：支援会員 25人</p>
--------------------------------------	---